

# チモシー (英名: Timothy)

アワガエリ属 略号: TY



穂の形状

## <特徴>

- 和名: 大粟返り (オオアワガエリ)
- 収量性が高い
- 1 番草 : 2 番草 = 7 : 3 の割合で収量がある
- 採草利用時の収穫適期がオーチャードよりも長い
- 土壌凍結や雪腐病に強い
- 暑さと乾燥に弱い
- 嗜好性がとても高い
- 他草種との競合に弱く、混播組み合わせに注意が必要
- 3 回以上の多刈りにより他草種 (雑草) との競合で負け衰退する

収量

栄養価

嗜好性

持続性

## 見分けるポイント



球茎がある (初春や2番草収穫後は小さい)



葉舌はあるが葉耳が無い  
葉にねじれがある



光沢の少ない緑色が特徴

## 多収のポイント



裸地や雑草が目立つ  
チモシー草地

チモシーの年間収量のうち約7割を1番草が占めます。多収のためには1番草の収量を向上させることが重要です。

牧草の収量は、1茎重×栽培密度で決まります。

1茎重は、早春の施肥をできるだけ早く行うことで増加します。

栽培密度は刈取り高を10cm以上にすることや1番草収穫後の施肥を必ず行うことなどで維持が可能です。

裸地や雑草を増やさないよう、チモシーの生理に合わせたほ場管理を行うことが重要です。

## チモシー（英名：Timothy）

アワガエリ属 略号：TY

## 品種の選び方

種苗会社は、極早生～晩生までそれぞれ品種を取りそろえています。極早生品種と晩生品種では、出穂時期に 20 日以上之差があります。自農場の収穫時期に合わせた品種の選定を行いましょう（図Ⅲ-1 参照）。

最近では、中生品種を選択する農場が多い傾向にあります。これは、収穫適期を刈取り時の天候に合わせるためだったり、早生品種と比較して収量が多かったりするためと考えられます。一方で、早生品種と比較して初期生育は穏やかであり、雑草との競合に弱い傾向があります。中生品種は早生品種よりも丁寧な管理が必要です。

6月15日	6月20日	6月25日	6月30日	7月5日	7月10日
クンプウ	ホライズン	アルテミス		キリタップ	
センブウ	ノサップ	アッケシ		シリウス	
	なつちから	なつぴりか		キウス	
	マオイ	ヘリオス		なつさかり	

図Ⅲ-1 根釧地域のチモシー各品種の出穂始/開花始（種苗メーカー各社カタログより作図）

## チモシー草地の管理方法

チモシー草地の収量を確保しつつ長く維持するためには、施肥作業と収穫作業で重要なポイントがあります。

全てを守ることは難しいかもしれませんが、これらを意識的に行うことでチモシー草地を長く維持することが可能です。

作業	ポイント
更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリホサート系の除草剤で2回処理する</li> <li>1～2回目の間隔を十分に空け、雑草を40～60cmまで伸ばして効きを良くする（詳しい防除方法はR6年版営農改善資料参照）</li> </ul>
施肥	<ul style="list-style-type: none"> <li>有穂茎割合を増やすために早春の施肥・ふん尿散布を可能な限り早く行う</li> <li>翌年の1番草となる新分げつを増やすため、1番草収穫後の施肥を刈取り後10日以内に行う</li> <li>1番草後、施肥量はN2～4kg/10aが目安</li> <li>1番草収穫後のふん尿散布は翌年の1番草になる新分げつを踏みつけるため、極力避けるか、刈取り直後に行う</li> <li>土壌pHを6.0～6.5に維持するための炭カル等石灰資材を施肥する</li> </ul>
収穫	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫は出穂始め以降に行う</li> <li>刈取り高を10cm以上にし、刈取り後枯死しないようにする</li> </ul>

# オーチャードグラス (英名: Orchardgrass)

カモガヤ属 略号: OG



穂の形状



## <特徴>

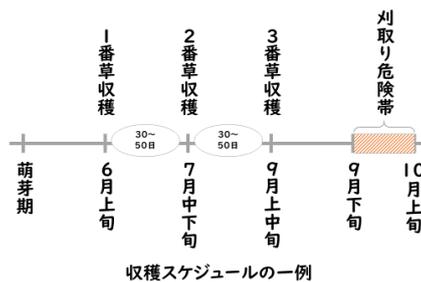
- 和名：鴨茅（カモガヤ）
- 収量性は3回刈りでチモシー2回刈りと同程度
- 出穂期はチモシーより早く、年3回の収穫が基本となる
- 生育はチモシーに比べ旺盛
- チモシーとは再生方法が異なるため収穫後の再生が旺盛
- 翌年の収量確保のため、最終番草刈取り直後に施肥が必要
- 9月下旬～10月上旬は刈取り危険帯と呼ばれ、この時期に収穫すると冬枯れリスクが高くなる
- 収穫適期の栄養価は高いが刈り遅れによる品質低下が著しい

収量

栄養価

嗜好性

永続性



左図 日本飼養標準乳牛 2017年度版より

## 見分けるポイント



茎が平ら（左が OG 右は TY）



茎の断面をみると平らであることがわかりやすい



株を形成する

## 多収のポイント

草勢が良く他品種を圧倒するので、単播もしくは初期生育の良いイネ科牧草との混播に向いています。施肥は早春：1番後：2番後：3番後＝1：1：0.7：0.3で、当年の収量を確保しつつ越冬できる栄養を蓄えさせます。ただし収量は1番草≒2番草>3番草なので、番草毎の収量に合わせた施肥割合を検討する余地があります。

# ペレニアルライグラス (英名: Perennial ryegrass)

ドクムギ属 略号: PR



穂の形状

(出典: 日本帰化植物写真図鑑)

## <特徴>

- 和名: 細麦 (ホソムギ)
- 茎数密度が高いため放牧向き
- 初期生育に優れるので追播に適する
- 越冬性に劣るため根室管内ではオーチャードとの混播や放牧地での混播など補助草種として利用する
- 極端な高温・低温に弱く、乾燥、酸性、排水不良な土壌には適さない
- 雪腐病に弱いため、秋の施肥もしくは有機物散布によって越冬できる草丈まで生育させる必要がある
- 雪腐病や土壌凍結により春の生産量は安定しないが、夏から秋にかけて回復する
- 糖含量が高く、イネ科牧草のなかでも特に嗜好性に優れる
- 開花期以降は飼料品質が大きく低下する

収量

栄養価

嗜好性

永続性

## 見分けるポイント



葉の光沢の他に

- ①葉の断面はV字型
- ②茎が平たい
- ③茎の根元が赤い

といった特徴があります。

葉に光沢があり、遠目でも確認しやすい

## 導入・栽培のポイント

嗜好性が極めて高く飼料としての価値が高いペレニアルライグラスですが、チモシーやオーチャードに比べて雪腐病や土壌凍結によって冬枯れを起こしやすい草種です。根室管内における導入・栽培にあたっては、

(1) 雪腐病に強い品種を選定する

(2) 基幹草種ではなくオーチャードなどの補助草種として導入する

(3) 追播は5月中旬まで、は種は7月中に終わらせ、越冬のための栄養を蓄えさせる

(4) 根雪が遅く土壌凍結が深く入る年ほど越冬できず枯死してしまう個体が増えるため、そのような年は春の追播に向けた準備を冬のうちにを行う

といったポイントがあります。

# メドウフェスク (英名: Meadow fescue)

ドクムギ属 略号: MF



穂の形状

(出典: 日本帰化植物写真図鑑)

## <特徴>

- 和名: 広葉の牛の毛草 (ヒロハノウシノケグサ)
- 年間収量はチモシーやオーチャードに劣るものの、年間を通して安定した収量が期待できる
- 耐干性が高く、越冬性はオーチャード以上である
- 嗜好性や飼料品質は他草種に劣るためオーチャードグラスやチモシーの補助草種として利用する
- ペレニアルライグラスの飼料品質とメドウフェスクの越冬性をもつ「フェストロリウム」の育種が進んでいる
- フェストロリウムは放牧・採草のほか追播などの利用が考えられる

収量

栄養価

嗜好性

持続性

## 見分けるポイント

ペレニアルライグラスと同じような光沢がありますが、

- ① 茎は丸い
  - ② 葉の断面は平ら
  - ③ 茎の根元まで青い
- といった違いがあります。



株を形成し、よく目立つ

# ケンタッキーブルグラス (英名: Kentucky bluegrass)

イチゴツナギ属 略号: KBG



穂の形状

(出典: 日本帰化植物写真図鑑)

## <特徴>

- 和名: 長葉草 (ナガハグサ)
- 痩せた土地、酸性土壌でもよく生育する
- 踏圧に強く放牧地で利用される
- 高温時にさび病が発生しやすい
- 葉が細く草丈も低いため収量性は低い
- 地下茎で増え、収量性が低いため採草地では雑草として扱われることが多い

収量

栄養価

嗜好性

持続性

## 見分けるポイント



葉先が舟形になっている



茎が平たくて、他草種より濃い緑色